

報道関係者各位

2026 年 8 月 10 日

株式会社 JDSC

JDSC、アグリルーツと露地栽培における AI 農業アシスタントの実証を開始 ～熟練農家の知見を AI で継承し、農業の人材育成・負担軽減を目指す～

株式会社 JDSC（本社：東京都文京区、代表取締役：加藤 エルテス 聡志 / 佐藤飛鳥、以下「JDSC」）は、株式会社アグリルーツ（本社：群馬県前橋市、代表者：井上優、以下「アグリルーツ」）と共同で、露地栽培における「AI 農業アシスタント」の実証を開始します。

本実証では、生育状況や作業判断の標準化が難しい露地栽培にデータ・AI を活用し、熟練農家の経験や判断を AI に取り込むことで、現場作業者がその場で適切な判断やアドバイスを得られる仕組みの実現を目指します。管理者の負担軽減や人材育成を支援するとともに、農業現場における知識・ノウハウの継承に貢献します。

露地栽培は、ハウス栽培と異なり気象条件や土壌状態の影響を受けやすく、生育状況の把握や栽培管理が難しいことが課題とされています。また、栽培管理のノウハウは熟練農家の経験や勘に依存する部分が大きく、技術継承や人材育成が進みにくいほか、特定の管理者に判断やノウハウが集中してしまう点も課題です。

こうした課題に対し、本実証では熟練農家の判断ロジックを AI で再現する「AI 農業アシスタント」の構築を目指します。熟練農家の経験を誰もが活用できる形で現場へ展開することで、技術継承や人材育成を支援するとともに、管理者の負担軽減につなげます。将来的には、生育状況や土壌環境などのセンサーデータも活用し、生育予測や施肥・防除などの栽培判断まで支援する AI へと発展させていく方針です。

この構想の実現に向け、アグリルーツが保有する圃場を活用した実証を進めます。実証では、熟練農家の知見に加え、現場で得られる生育状況や作業履歴などを継続的に AI の学習に反映し、利用するほど精度が向上する仕組みを構築します。初期段階では、作業からの栽培や作業に関する相談に対して熟練農家の判断に基づく回答を提示し、その有効性を検証します。

JDSC は、AI・データサイエンスを活用し、各産業の専門知識を取り入れた AI の社会実装を推進しています。本実証を通じて、農業現場の負担軽減や人材育成を支援するとともに、熟練農家の経験を次世代へ継承する仕組みづくりに取り組み、持続可能な農業の実現に貢献してまいります。

以上

■株式会社アグリルーツについて <https://agriroots01.com/>

アグリルーツは、群馬県前橋市を中心に多品目の露地野菜を周年栽培する農業生産法人です。経営総面積は 80ha 超、群馬県内 500 か所以上の圃場を約 65 名のグローバルな人材と複数のデジタルアプリケーションを活用して経営・管理しています。主力商品の露地ナスの出荷量は、国内最大規模を誇ります。2023 年に農業の国際基準 GLOBAL G.A.P. 認証を取得。新鮮で質の高い農産物の安定供給をめざして、鮮度品質主義のサプライチェーンの構築に努めてまいります。

■株式会社 JDSC について <https://jdsc.ai/>

JDSC は、AI エージェントとデータサイエンスを核に、日本の基幹産業の変革を進めるテクノロジーカンパニーです。製造・物流・インフラ・公共などの現場に深く入り込み、DX や AX による意思決定の高度化から、フィジカル AI による現実世界の最適化・自律化までを実現。社会課題を解決する新たな産業スタンダードを創り、日本のアップグレードに貢献します。

【本プレスリリースに関するお問い合わせ先】

株式会社 JDSC 広報担当 info@jdsc.ai